



いわて生協で行っているふれあいサロンの様子(関連記事はP2を参照)。



福井県民生協が運営する介護施設「岡保(おかぼ)きらめき」の入居者と地域の住民が大根を収穫する様子(関連記事はP5を参照)。

P2 特集

## 被災地の復興に向けて

P5 生協・地域貢献レポート

住み慣れた地域で暮らし続けられることを目指して(福井県民生協)

P6 CO・OP国際活動情報

ヨーロッパの生協の概況

P7 事業種別生協のご紹介

CO・OP共済

トピックス

パラノルディックスキー日本チームを応援

P8 生協ミニ知識

SDGsと生協④

# 被災地の復興に向けて 被災者に寄り添った支援を継続



ふれあいサロンの様子。

東日本大震災の発生から7年が経過しました。今もなお続いている被災地のくらしの再建には長い年月が必要です。2017年7月には九州北部豪雨による甚大な被害が発生。復興に向けて被災地の生協と全国の生協が取り組んでいるさまざまな支援活動を紹介します。

## ふれあいサロンで 地域の居場所づくり いわて生協

ここに来ると楽しい！  
笑顔広がるふれあいサロン

東日本大震災から7年、いわて生協では震災直後の炊き出しや移動販売をはじめ、被災した沿岸部に盛岡市からバスで行き、ボランティア作業に従事するバスボランティアや、無料買い物バス、ふれあいサロンなど、被災地・被災者に寄り添った支援活動を事業と活動の両面で継続してきました。

でもほっとできる時間を過ごしてほしい」と2011年6月に、陸前高田市の避難所で始まりました。被災地のニーズに沿って開催会場を増やし、ピーク時には74カ所で開催しました。現在は宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、盛岡市などの34カ所で毎月開催しています。これまでの開催回数は3,400回を超え、延べ2万5千人が参加しました。参加者からは1カ月に1回のサロンが楽しみという声が多く寄せられています。

### 手作りの3行レシピ集で 食の支援を

「震災以降、料理をする気になれない」などの声を受けて、食を大切にする生協として何かできないかとスタートしたのが、「3行レシピ集」の作成です。3行レシピ集は、3行程度の説明で作りがわかる簡単でおいしい料理をまとめたもので、いわて生協の組合員が中心になってこれまで14集を発行しました。このレシピ集は、ふれあいサロンの参加者や、津波による甚大な被害を受けた沿岸部で運行している移動店舗「にこちゃん号」の利用者に



いわて生協が作成した3行レシピ集。



震災遺構として保存されている「津波被災バストイレカー」。

## 震災を忘れない 風化させないために コープふくしま

配布しています。  
さらにレシピ集を使った昼食会をふれあいサロンで開催し「これなら作れる」「みんなでおくとおいしい」と喜

ばれています。  
いわて生協はこれからも変化していく被災地・被災者に寄り添った支援活動を続けていきます。

### 目にする風景や被災者との交流を通して

福島第一原子力発電所の事故処理には長い年月が必要です。福島県では原発事故の影響から、復旧・復興に至っていない地域もあります。一方、時間の経過とともに被災地の現状を伝える報道は少なくなり、現地の様子や被災者の思いが伝わりにくくなってきました。

コープふくしまでは「忘れない、風化させない取り組み」として福島県の実情や起きたことを伝える「被災地視察」の受け入れや、他県を訪問しての学習会・報告会に取り組んでいます。被災地視察に際しては、福島県に来て被災地を歩き、現状を見て、生産者や仮設住宅で暮らす方

ちと交流することなどによって、実態を知ってほしいとの思いがあります。

これまでに行われた「被災地視察」や学習・報告会の開催回数は360回を超えています。全国の生協から多くの役員や組合員が福島県を訪れ、農業や漁業の実情を聞き、被災者の声に耳を傾け、津波被害の影響が残る沿岸部などを視察しました。参加者からは

「現状を目の当たりにしてまだまだ復旧が進んでいないことに驚いた」「現地で見えてきたことを自分の言葉で伝えていきたい」といった感想が寄せられ、継続した支援の大切さと、それぞれの地域でできる復興支援を考えることにつながっています。

### 復興支援のシンボルとして

コープふくしまは福島県富岡町、福島県農林種苗農業協同組合が進めている「夜の森」



日本生協連での「夜の森さくら」植樹式の様子。

森さくらプロジェクト」に協力しており、全国の生協に広がっています。「夜の森さくらプロジェクト」は、震災・原発事故以前は桜の名所だった福島県富岡町の「夜の森の桜並木」の直系子孫の苗木を全国に贈る活動です。被災地に心を寄せてくださる方々とのつながりを大切にし、震災や原発事故を忘れない、風化させないとの思いがこめられています。

コープふくしまは今後も全国の生協とともに「忘れない、風化させない取り組み」を継続してまいります。

## 九州北部豪雨による 被害への復旧支援活動 エフコープ

**被災直後の緊急支援から  
生活再建に向けた支援へ**

2017年7月5日に発生  
した「平成29年7月九州北



東北の生協や取引先から提供された支援物資を使って、東北地方の郷土料理「はっと汁」の炊き出しを避難所で実施。

部豪雨」では、福岡県と大分県を中心に人的被害のほか、多くの家屋の全半壊や床上浸水、土砂の流入など、甚大な被害が発生しました。また電気、水道などライフラインのほか、道路、鉄道や、なりわいの基盤となる農地、農業用施設などにも大きな被害が生じました。

エフコープ（本部…福岡県）では、災害発生後の「九州北部豪雨支援者情報共有会議」へ出席するなど、被災地の関係者と情報交換をしながら、さまざまな場面で支援活動を行っています。

これまでに避難所への飲料、缶詰、洗剤など支援物資の提供や、避難所や仮設住宅での炊き出し、災害ボランティアセンターの運営支援、仮設住宅への引っ越しの手伝いなどの支援活動を行いました。また九州各地の生協に呼びかけて被災地の「生活再建」のお手伝いのためにボランティアバスを運行しました。ボランティアバスにはエ

フコープ、生協くまもと、ララコープ（本部…長崎県）、コープさが、コープ九州事業連合などの役員、組合員が参加し、家屋内外の泥出しや、床下の清掃作業、家財道具の洗浄、農地の再生などの支援活動を実施しました。

### 地域の復興に向けて 被災者に寄り添った支援を

エフコープでは、被災者の支援とエフコープが実施する支援活動のため、2017年7月から8月にかけて、店舗と共同購入で緊急災害募金活動に取り組みました。この期間に2,500万円を超える募金が寄せられ、8月から9月にかけて義援金として、朝倉市に2,066万円、添田町に122万円、東峰村に312万円を贈呈しました。

また12月に入って寒い日々が続く中、朝倉市の応急仮設



家屋内外の泥出しの様子。

住宅の入居者から「暖房器具が欲しい」という声が寄せられ、緊急災害募金の一部で暖房器具を贈りました。これに対して森田俊介朝倉市長から「この冬は特に冷え込みが厳しく、喜ばれている」と感謝の言葉をいただきました。

エフコープは被災された方や地域のくらしが一日でも早く元に戻るよう、引き続きさまざまな支援に取り組んでいきます。

福井県民生協

# 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられることを目指して

あなたらしきいつまでも

高齢化が進む中、年をとっても住み慣れた地域で、自分らしい生活を送るには、地域での支え合いや仕組みづく

りが必要です。福井県民生協は、「あなたらしきいつまでも」を福祉理念とし、高齢になっても、住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らし続けられるように、介護保険サービスタなどの高齢者支援サービスタを行っています。

スを変えることも可能です。  
自分らしく  
生き生きと過ごせるように

「グループホーム」は一人ひとりのできることを生かしながら、家庭的な雰囲気の中で暮らすことができますという特長があります。2017年から「岡保さらめき」のグループホームで、入居者の自性や社会とのつながりを大切にする新しい取り組みが始まりました。入居者主体のくらしの実現に向けて、入居者自身が一日のスケジュールを決めたり、温泉旅行や堂観賞などやってみたいことの計画を立てて実現させています。

グループホーム入居者と職員が一日のスケジュールを話し合う様子。

福井県民生協が運営する福井市の介護施設「岡保さらめき」には、日帰りのサービスタ「認知症対応型デイサービス」と、通いを中心に必要な応じた訪問、宿泊のサービスタが利用できる「小規模多機能型居宅介護」、認知症と診断された方々が少人数で共同生活を行う「グループホーム」という3つのサービスタがあります。同じ環境の中で、サービ

「グループホーム」は一人ひとりのできることを生かしながら、家庭的な雰囲気の中で暮らすことができますという特長があります。2017年から「岡保さらめき」のグループホームで、入居者の自性や社会とのつながりを大切にする新しい取り組みが始まりました。入居者自身が一日のスケジュールを決めたり、温泉旅行や堂観賞などやってみたいことの計画を立てて実現させています。また地域の方と一緒に畑で野菜を育てたり、清掃ボランティアに参加することで地域社会と関わりを持ち、充実感を高めています。入居者からは「みんなでいろいろなことを決めてやれるのは張り合い



グループホーム入居者と地域の住民と一緒に育てた大根を収穫。

があります」 「認知症で忘れることもあるけれど毎日楽しく過ごしています」などの声が寄せられています。

福井県民生協はこれからも利用者に寄り添った介護サービスタの提供を通して、地域での暮らしを支えていきます。



# ヨーロッパの生協の概況

## 世界の協同組合の 成り立ち

世界の協同組合の連合組織である国際協同組合同盟（ICA）<sup>※1</sup>によると、100以上の国々で、事業内容も規模もさまざまな300万もの協同

組合が活動しており、組合員は約12億人、世界の雇用の約10%に相当する2億8,000万人の雇用を生み出しています。

協同組合運動の最初の成功モデルとなったのは、1840年代、不純物の混入や量目のごまかしなど生活必需品の不正な取引が横行していたイギリスのロッチデールというマンチェスター郊外の町につくられた「ロッチデール公正開拓者組合」という生協でした。この生協は、混ぜ物のない純粋な食品を適正価格で販売することで成功をおさめ、ロッチデールの協同組合モデルはヨーロッパ、南北アメリカで広く受け入れられ、19世紀末には日本でも生協がつけられるようになりました。

## くらしに深く関わる ヨーロッパの生協

世界的にみて、生協がもつとも発展している地域はヨーロッパで、イタリア、スイ

ス、デンマーク、フィンランドなどでは国内No.1の流通グループとなっています。

ヨーロッパの生協は、食品スーパーマーケットやコンビニエンスストアのほか、衣料品や日用品の専門店、インターネットショップ、銀行、旅行代理店、レストランやパブ、ホテル、ガソリンスタンドなど、国ごとに多様な事業を展開しています。

生協発祥の地イギリスでは、生協が動物福祉やフェアトレードの推進役となってきました。また、北欧4カ国（ノルウェー、スウェーデン、デンマーク、フィンランド）の生協は、商品共同仕入会社をつくりコープ商品の開発を行うなど、国境を越えた共同事業を行っています。



イタリアの生協の店舗。

イタリアの生協は、豊かな食文化を誇る同国の食品流通のリーダーとして、高品質なコープ商品を開発しています。日本生協連はイタリアの生協と提携し、イタリアのコープ商品を輸入、日本国内の生協で販売しています。

※1 ICA=International Co-operative Alliance. 協同組合の国際組織。  
※2 2018.2.13時点の為替レートで計算。



日本コープ共済生活協同組合連合会（以下、コープ共済連）は、病気やケガ、死亡などを対象とする5つの共済と、住まいと家財を対象とする火災共済を扱っています。2017年3月20日時点で、加入者は852万人、2016年度の共済金のお支払い件数は約130万件、お支払い額は約644億円となっています。

### ●「地域ささえあい助成」 団体交流会を開催

コープ共済連は、豊かな社会づくりを目指し、2012年度より社会貢献活動として、生協とNPOなど地域の団体が協同して地域の暮らしを向上させる活動に



東京会場の様子。



同志社大学大学院 上野谷加代子 教授による講演の様子。

対して「地域ささえあい助成」を実施しています。6年目を迎えた2017年度は、42団体に2,492万9,950円を助成しました。

2017年12月、助成団体がさらに発展した取り組みができるように、東京と大阪の2会場で団体交流会を開催し、合計で95人が参加しました。東京会場では、「地域ささえあ

い助成の目指すもの」と題した日本生協連による講演や、助成団体による活動報告、参加者による意見交換を行いました。大阪会場では、同志社大学大学院 上野谷加代子 教授による『「たすけ上手・たすけられ上手」の地域づくり ～推進団体の役割と課題～』と題した講演や、助成団体による活動報告、交流を行いました。参加者からは「単体で活動するだけでなく、さまざまな人たちと協力しながら活動していくことが大事だということがよくわかった」などの感想が寄せられました。

## トピックス

## パラノルディックスキー日本チームを応援



海外遠征用にお届けした食料品を仕分けする選手たち。

日本生協連は2006年より「パラノルディックスキー日本チーム」をチームスポンサーとして支援しています。「パラノルディックスキー日本チーム」は、日本障害者スキー連盟のメンバーを母体に結成されているナショナルチームです。雪原のマラソンとも呼ばれる「クロスカントリースキー」と、クロスカントリースキーと射撃を組み合わせた「バイアスロン」競技で、ワールドカップやパラリンピックなどに出場しています。

日本生協連はチームの海外遠征や強化合宿にあたり、コープのお米や即席みそ汁、焼きのりなどの食料品を提供しています。選手からは、試合前でも手軽に食べることができるおにぎりが活力の源になると喜ばれています。さらに2017年9月から「CO-OP応援食クッキー」を1袋ご購入いただくごとに1円を日本障害者スキー連盟に寄付する取り組みを始めました。寄付金は、次世代を担うジュニアチームの合宿や国際大会の遠征費用などに使われます。

国際連合は2015年9月、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を採択し、「持続可能な開発目標」(SDGs)を掲げました。SDGsは先進国・開発途上国にかかわらず全ての国が取り組む普遍的なもので、17の目標・169のターゲットで構成されています。また、2030アジェンダは、あらゆるステークホルダーが連携することを求めている、実施するセクターの一つとして協同組合も認知されています。

生協の事業・活動と関わりを持つ目標の一つに目標14「海の豊かさを守ろう」があります。日本の生協は、生協の21世紀理念として「持続可能な社会の実現」を掲げ、さまざまな取り組みを進めてきました。豊かな海を守る活動として、たとえば、森林、河川、海の循環に着目した植樹活動や、対象商品を購入することで基金を積み立て、サンゴを養殖しサンゴ保全に活用したりするなどの取り組みが各地で進められています。また、商品開発においてはMSC認証商品の取り扱いがあります。MSC認証は、海洋の環境や水産資源を守



「コープ商品ミュージアム」(日本生協連)でMSC認証商品を展示(2017年7月)。

ているなど、持続可能な漁業を認証する制度で、認証された漁業によりとられた水産物にはMSC「海のエコラベル」が付きまます。2017年12月現在、コープ商品でのMSC認証は47商品になりました。引き続き、MSC認証取得の商品を増やすとともに、組合員・消費者に向けて「海のエコラベル」の意味をお知らせする取り組みを進めていきます。

※1 Sustainable Development Goals

※2 1997年策定。「自立した市民の協同の力で 人間らしい暮らしの創造と 持続可能な社会の実現を」

※3 Marine Stewardship Council : 海洋管理協議会

※4 海のエコラベル



## 日本生活協同組合連合会(略称:日本生協連)組織概要

生協(生活協同組合)は、農協や漁協などと同じ協同組合の一つです。「消費生活協同組合法(略称:生協法)」に基づいて設立され、生活の向上を目指し、さまざまな事業・活動を行っています。生協は、利用者である組合員自身が出資し、意思決定や運営に参画する組織です。

日本生協連は、生協法に基づく生協の全国連合会で、右のような事業と活動を行っています。

### ■主な事業と活動

1. 会員生協への商品供給などに関わる事業
  - ① コープ商品などの開発と供給
  - ② 通販事業
  - ③ 商品事業に関わる品質管理、物流・情報システムなど事業基盤の開発や運用 など
2. 生協の全国組織としての取り組み
  - ① 生協の全国的な事業・活動方針策定
  - ② 国内・国外の各種協同組合・諸団体・行政などとの連絡・調整
  - ③ 「食」「環境」「福祉」「消費者問題」など生活に関わる社会的テーマについての意見発信や取り組み など
3. 会員生協への支援の取り組み
  - ① 会員生協間の連絡・調整・交流
  - ② 会員生協の宅配・店舗・福祉などの事業や、環境保全・くらしの助け合いなどの組合員活動への支援
  - ③ 会員生協の組織運営・法令順守の支援 など

代表理事会長 本田 英一  
 会員数 322会員(2016年度末)  
 供給高 3,716億円(2016年度)  
 全国の組合員数 2,861万人(2016年度末)  
 会員生協の総事業高 約3.4兆円(2016年度)  
 創立 1951年3月20日  
 [URL] <http://jccu.coop/>